

視覚によるバックホーとの挟まれ防止

千葉県土木施工管理技士会
日之出建設株式会社

鈴木 清[○]
坂部 治郎

1. 適用工種

バックホーの作業半径を実測による測定をし、模様を写真に撮影し他機種の場合も訓練時に考える。

2. 改善提案

バックホーの作業半径はカタログに記載されているが、その数値を人間の両手を広げ何人までが作業半径かを確認をする。その事によって、わかりやすい判断ができる

3. 従来工法の問題点

カタログよりのデータを手口で説明をするより、人間のサイズ（両手を広げて）でも説明により明確に説明ができる、カタログよりの数値は、ミリメートル単位まで記載されているが、安全は数値よりも視覚による説明のほうが、実感がわき良い結果がでる

4. 工夫・改善点

バックホーのエッジで作業半径を描き、カウンターウエイトから描かれた場所まで、実際に作業する人で両手を広げて並び、何人過ぎれば安全な場所になるかを測定して写真に撮る。

5. 効果

作業員も何人離れば安全かを知るとが、でき自分

たちのサイズで測ったので、何メートル何センチよりもわかりやすいと実感をしていただけた。



写真-1 測定状況



写真-2 安全会議

6. 適用条件

両手の広げてのサイズのため、安全にのみ使い、掘削の目安に使うと、深堀の原因ともなり、使い分ける必要がある。

7. 採用時の留意点

両手を広げたサイズは人によって多少の違いがあるので、あの機械には、何人離れる、程度の指示が最適である